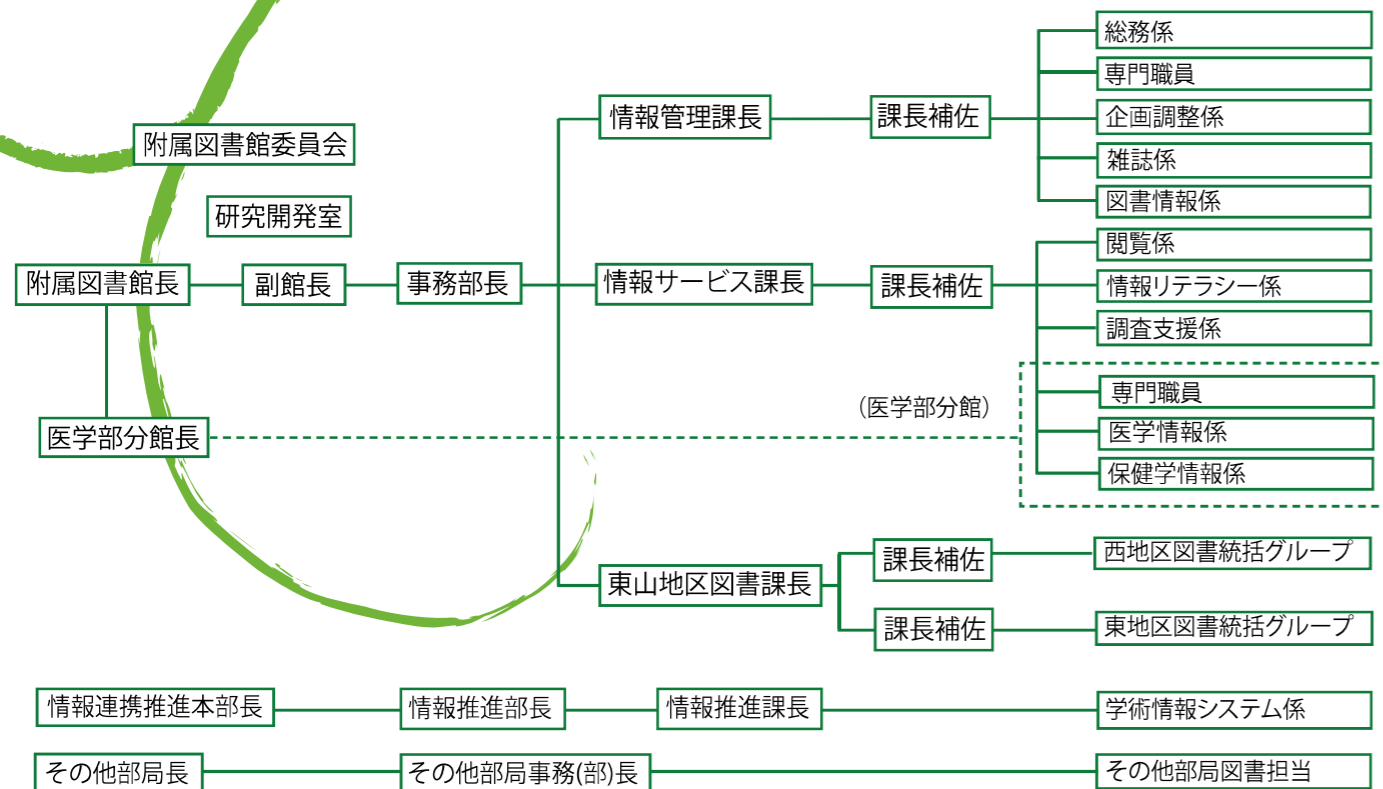




名古屋大学附属図書館概要

2021

附属図書館の運営及び事務組織



東海国立大学機構における図書館の在り方についてグランドデザインを策定しこれに基づいた活動を行っています。

東海国立大学機構 図書館グランドデザイン2021

世界屈指の教育・研究を支える糧となる

■機構図書館のミッション
デジタルの進展によって情報があふれる世界において、人と情報を結ぶ図書館の役割はより重要になる。世界中のどこからでも、いつでも、教育研究に必要な資料やサービスが利用できるデジタルライブラリー機能と、創造的学習を支えるフィジカルな図書館機能を充実させ、世界で活躍する人材の育成に貢献するとともに、地域特有の文化・歴史を広く世界に向けて発信し、教育研究の振興に貢献する。

■学修・教育支援 ■ 研究支援 ■ 社会貢献

人と情報を結び、学びのパートナーとなる図書館

- 学修・教育に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- 教員のパートナーとなり授業に沿った調査支援・情報リテラシー教育実施
- 電子書籍等、リモート学習教材の充実
- withコロナのアクティブラーニングスペース再構築、Libプラザを設置により学生の創造的育力を引き出す学習環境を提供
- アカデミックセントラルを通じて親大学の共通教育に貢献
- オンライン授業コンテンツのアーカイブ支援

オープンサイエンスを推進する図書館

- 研究成果の管理・共有に関する相談窓口の強化、顔の見える専門職員チームによるサポート
- 研究データの管理・共有、研究成果物の公開・社会に向けたアピールを推進
- 関連部署、各分野の教員とデータフォーマット管理のガイドラインを作成し、研究ノートの一元管理を支援
- 電子ジャーナル等研究に必要な資料へのアクセス確保、機密契約によるメリット

地域に根ざした知的・文化的施設としての図書館

- 岐阜大学のアーカイブの博物史料、名古屋大学の高木家文書等の貴重資料の活用
- 貴重資料をデジタル化し、ジャンパー連携により世界に向けて発信
- 機構プラットフォーム枠のミッションに貢献
- 資料と人、人と人をつなぐ場として、地域社会の生涯学習・キャリア教育に寄与
- 特定基金事業のPRや支援者との対話を進じ、地域社会との強固な信頼関係を構築

■蔵書構築/図書館運営

大学の学術基盤を整え、機構内外から頼りになる存在として成長し続ける図書館

・デジタル時代のRight-Scalingな蔵書構築

- 基本業務（選書・取集・管理、全国共同データベースへの登録・整理、提供（貸出/返却）、レファレンス（こんなことを調べたい等の疑問に資料や探し方を紹介）、IL（海外を含む大学との資料の提供貸出）、リサーチ教育（情報の正しい取集、分析・評価・発信スキル向上）講習会の企画・実施等）の業務効率化を図るとともに、これら業務経験の総合的積み上げにより深化する専門性を活かして新たなサービスを展開

人材育成

岐阜大学・名古屋大学の職員が一体となった専門職集団としてこれらの取り組みを支え、さらなる専門性向上に努めることにより世界に冠たる東海国立大学機構の学術基盤を支え教育研究の振興に貢献

ラーニング・commons

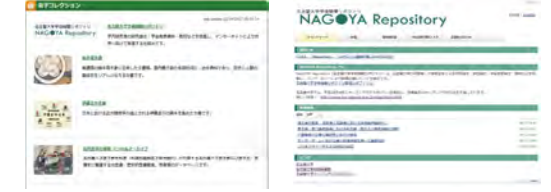
中央図書館ラーニング・commonsは、自律的な学習を支援し、知識の創造を促す図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生のみなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供

→ <https://lc.nul.nagoya-u.ac.jp>



学術情報のデジタル化・情報発信



電子コレクション → https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/e_collect/

沿革

- 1939年 4月 名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、各学部に図書分室設置
- 1942年 4月 理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に図書分室設置、東山キャンパスへ移転
- 1945年 空襲により図書館資料の一部焼失
- 1946年 3月 環境医学研究所附置に伴い図書室設置
- 1947年 10月 名古屋大学附属図書館に改称
- 1948年 9月 文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書分室設置
- 1948年 10月 附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町へ移転
- 1950年 4月 法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部に図書分室設置
- 1952年 4月 瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区瑞穂町)設置に伴い図書分室設置
- 1952年 9月 農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置
- 1960年 8月 文・理の2学部を除く各学部に図書併設
- 1964年 12月 東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館
- 1966年 4月 農学部(図書室)東山地区へ移転
- 1970年 10月 附属図書館報『館燈』創刊
- 1973年 3月 鶴舞キャンパスに医学部分館設置
- 1981年 9月 新中央図書館開館
- 1994年 10月 中央図書館増築工事竣工
- 2001年 4月 附属図書館研究開発室設置
- 2006年 2月 名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開
- 2009年 12月 中央図書館にラーニング・commons設置
- 2010年 5月 中央図書館にコーヒージャップ開店
- 2010年 7月 理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
- 2011年 6月 工学部中央図書室がES総合館に移転開室
- 2012年 6月 金沢、静岡、名古屋大学附属図書館による「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」締結
- 2014年 3月 中央図書館老朽対策等基盤整備事業竣工
- 2015年 3月 医学部分館(鶴舞・大幸キャンパス)改修事業竣工
- 2016年 4月 名古屋大学オープンアクセスポリシー制定
- 2017年 3月 アイソトープ総合センター図書室廃止
- 2017年 4月 附属図書館支援事業(特定基金)設置
- 2017年 10月 附属図書館事務部組織の再編
- 2017年 11月 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館
- 2018年 7月 ビブリオサロンをOKB高木家文書資料館へ改称
- 2019年 7月 高木家文書が国の重要文化財に指定される
- 2020年 4月 東海国立大学機構が発足
- 附属図書館は運営支援組織へ改組
- 2021年 7月 中央図書館にメイカースペース設置

おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は、美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする、旧旗本交代寄合・西高木家に伝えた古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており、幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか、他に例をみない、傑出した規模と内容を有しています。

高木家文書は、旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく、国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから、高い評価と注目を集め、様々な分野で活用されてきました。

現在までに6万2,000点余が目録化されており、附属図書館研究開発室では、残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに、損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善、利用環境の向上に努めています。



木曾三川流域大絵図
高木家が河川管理に用いた宝暦治水(1754-55年)以前の流域環境を示す絵図。



宝暦4(1754年)2月15日付 起請文

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本188冊を集めたもの。『錦窠植物図説』『錦窠魚譜』『錦窠蟲譜』などの図譜のほか『採草叢初』などがある。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である水田洋名古屋大学名誉教授の旧蔵書で、近代西欧社会思想史関係原点2,255点、水田名誉教授宛ての書翰45点を含む計7,350冊のコレクション。



水田文庫の一部

数字で見る附属図書館 (2020年度)

サービス対象者数 25,033人 (学生 16,130人, 教職員 8,903人)
蔵書数

	和書	洋書	合計	所蔵雑誌種類数
中央図書館	707,972	531,319	1,239,291	17,767
医学部分館	109,831	82,412	192,243	5,831
部局図書室	1,012,567	920,532	1,933,099	31,385
合計	1,830,370	1,534,263	3,364,633	54,983

図書館

	開館日数	入館者数 (内学外入館者)	貸出冊数
中央図書館	261	210,683 (1,548)	121,989
医学部分館 (保健学図書室除く)	252	57,350 (0)	2,620
部局図書室	127~241	175,136 (806)	62,663
合計	-	443,169 (2,354)	187,272

図書館経費

単位:千円

	中央図書館	医学部分館	部局図書室	合計
図書費	359,109	101,097	439,164	899,370
図書費のうちE印相当	234,949	77,790	250,260	562,999
運営費	204,768	22,405	74,623	301,796
合計	563,877	123,502	513,787	1,201,166

相互利用(中央館)

	受付件数		依頼件数	
	国内	海外	国内	海外
文献複写	1,942	51	4,795	175
現物貸借	1,017	3	1,808	37
参考質問件数 (中央館)				899

電子図書館サービス

電子ジャーナル提供数	21,486誌
電子ジャーナルダウンロード件数	3,414,439件
電子ブック提供数	33,206種
データベース提供数	40種
データベース検索数	471,154件
NAGOYA Repository登録件数	30,120件
NAGOYA Repositoryダウンロード件数	2,230,172件

施設

	面積 (m ²)	座席数
中央図書館	15,597	1,121
医学部分館	3,001	476
部局図書室	10,083	576